

はばたき賞の制定について

はばたき賞は、肢体不自由教育の先駆者として活躍された元全国肢体不自由養護学校会長の藤田貞夫先生(元愛知県立名古屋養護学校長)が、その著書「子供は何を望んでいるかー障害とたたかっている子ら」の発売を、名古屋空港ロータリークラブの委員長青山哲也氏に託された時の印税及び販売代金四、〇九六、四一五円を基金として設けられたものである。昭和五十二年、この浄財は、同クラブ会長高嶋昇一氏から全国肢体不自由養護学校長会総会において、「全国はばたきの会」を設立することを決定し、斯道奨励の一助として「はばたき賞」並びに「はばたき奨励賞」を制定した。「はばたき賞」は、障害を克服して学業・生活に努力を重ねる児童生徒の表彰に、「はばたき奨励賞」は、肢体不自由教育の実践研究に大きな業績を挙げた学校や教員に授与するものとしてスタートした。第一回はばたき賞等は昭和五十三年度から授与されることになり、今日に至っている。

はばたき賞の制定にあたっては、模範となる肢体不自由の「模範」とは何かとか、対象を小・中・高いずれの学部学年でも良いのか、人数は何人までかとか種々の質問も出たが、最終的には障害に負けず日常生活や学習等に努力をして他の模範となる中学部または高等部の三年生というのを原則とした。また、年次の対象人数は全国六ブロックからそれぞれ二名ずつを、各ブロックごとに推薦し、毎年一月の定例校長会の理事会で決定することにした。

はばたき奨励賞は、種々協議の結果、文部省の教育課程研究指定校と特殊教育実験学校に対して、研究終了年度に贈ることとした。症状は、書家としても有名で日本肢体不自由児協会主催の美術展の書の審査員でもある山下忠先生に書いていただいたもの、楯は、空港ロータリークラブにちなんで、大鷲がはばたく勇壮な型をもって当てた。

これまで、「はばたき賞」受賞生徒は百三十名を超え、「はばたき奨励賞」を送った学校も二十数校になる。都道府県によっては、地方紙に大きく受賞者のプロフィールなどを紹介されている例もあり、肢体不自由児教育への理解・啓発にもなっている。

昭和五十八年には名古屋空港ロータリークラブの青山さんが、東京都立小平養護学校(当時の事務局)にわざわざ訪問され、有効に活用していると感激されて帰られた。

心配なことは、元金約四百万円の預金利息をもって運営しているため、金利の低下の場合はなんらかの対策を講じる必要があるということである。

(第五代全国肢体不自由養護学校長会長 中島 秀夫 昭和 54～58)



はばたき賞 賞状と楯

6 はばたき第1号
令和6年11月 1日

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
地区会長殿

全国はばたきの会
会長 島添 聡
(都立光明学園校長)
(公印省略)

令和6年度 はばたき賞候補生徒等の推薦について (依頼)

皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会の事業の一環である「はばたき賞」につきまして、今年度も例年同様に実施いたします。「はばたき賞」の候補となる生徒及び「はばたき奨励賞」に推薦する教員の選出について御手配ください。

なお、推薦の要領は下記のとおりです。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

記

- | | |
|------------------|--|
| 1 推薦生徒数
推薦教員数 | 各地区2～3名 程度 (全国で18名まで)
各地区1～2名 程度 (全国で12名まで) |
| 2 推薦の方法 | 各地区で決定し、各地区会長が取りまとめて選出し、名簿をメールで事務局までご提出ください。また、推薦する生徒及び教員の推薦書につきましても、受賞者決定及び表彰状の文言準備のため、事務局まで送付してください。 |
| 3 推薦の〆切 | 令和6年11月29日(金) |
| 4 受賞者の決定 | 令和6年度全肢長第2回代表者研究協議会で、はばたき賞及びはばたき奨励賞受賞候補者の経過報告をいたします。その後、確認作業をして決定し、令和7年1月17日(金)開催予定の第3回代表者研究協議会で発表いたします。 |
| 5 留意事項 | (1) 一覧表作成のため、必ず期日までに名簿を御送付ください。
(2) 「はばたき会」「はばたき賞」については、総会資料の「全国はばたきの会事業<<全国はばたきの会規約>>」等を御参照ください。
(3) 名簿は「6 送付先」にメールにて御送付ください。 |
| 6 送付先 | 以下の担当と同様です。
全肢長事務局 西村 孝法 まで送付をお願いいたします。 |

【担当】

東京都立八王子東特別支援学校長

西村 孝法

電話 042-646-8120

E-mail: Takanori_Nishimura@member.metro.tokyo.jp